長崎医療センター
NAGASAKI MEDICAL CENTER NEWS

# 専齋 SENSAI

2022 JANUARY VOL.398

発行所
独立行政法人国立病院機構
長崎医療センター
〒856-8562
長崎県大村市久原2丁目1001-1
TEL 0957-52-3121
FAX 0957-54-0292




院長年頭所感
幹部職員　新年のご挨拶
年男・年女の今年の抱負

**長與 專齋**（1838年～1902年）
大村藩御殿医の家系に生まれる。緒方洪庵の適塾に学び、福澤諭吉の後を襲い塾頭となる。初代衛生局長として我が国の近代医療制度の確立に尽力した。衛生という言葉をはじめて採用したのも專齋である。專齋の生家は「宜雨宜晴亭」と呼ばれ、長崎医療センター敷地内に移築されている。

## 院長年頭所感



院長
江﨑 宏典

新年おめでとうございます。皆様におかれましてはつつがなく新しい年をお迎えになられたこととお慶び申し上げます。さて新型コロナウイルス感染も2年を経過しようとしています。昨年11月ごろから陽性患者数が激減しています。三回目のワクチン接種も開始されたので、第6波は到来せずこのまま収束して欲しいものです。

しかしながら新型コロナウイルスの新たな変異型である「オミクロン株」の流行が今後懸念されていますので、引き続きマスク着用や手指消毒といった感染対策を着実に行っていただきたいと思います。職員の皆様が感染予防に対して高い意識を持ち、一丸となって尽力していただいた結果、当院では院内感染の発生をみていません。皆様のこれまでの努力に心から敬意を表します。令和3年度の病院目標の一つとして「感染に強い病院」を掲げましたが、まさにその目標は達成されているものと思います。昨年10月には長崎県から第二種感染症指定医療機関に指定されました。これからも「感染に強い病院」として努力を続けて行きたいと思います。

本年がポストコロナ元年になるのか、それともコロナとの併存が続くのかはよくわかりません。しかしこれまでの2年間のコロナ対応の経験を踏まえ、コロナか通常の医療かの2者択一ではなく、どちらにもフレキシブルに対応できるような医療提供体制を構築することが肝要であろうと思います。そのためには地域の医療体制（地域医療構想）の再検討も必要でしょうし、当院の体制も見直していく必要があるだろうと考えています。

現在は「大きな物語」の時代を迎えているといわれているそうです。「大きな物語」とは資本主義や民主主義といった近代の理念のことだそうです。コロナ禍の蔓延、温暖化などによる自然災害の多発、また経済的格差の増大などにより、現代社会は不安定となってきており、社会生活の基盤である民主主義といった理念、「大きな物語」が揺らいできています。それを立てなすために新たな「大きな物語」が求められているというものです。私たちにとってもこの「大きな物語」は重要な課題ではありますが、しかし身近な地域社会に目を向け、まずは地域の医療の充実に努めていくことも同様に大切なことではないでしょうか。「小さな物語」を積み重ねることで素晴らしい地域社会が作られていくと思っています。

本年が、皆様と長崎医療センターにとってよりよき一年であることを祈念して、私の新年の挨拶とさせていただきます。

### 長崎医療センターの使命

長崎医療センターは以下の活動を誠実に行い、
地域拠点病院として住民と医療機関からの信頼を得る。

1. 安全で質の高い医療を提供する
2. 絶対に断らない救急医療の最後の砦となる気概を持つ
3. 地域の医療機関、行政と密接に連携する
4. すべての医療人と学生に魅力的な教育研修を提供する
5. 臨床研究を推進し、国際医療協力に貢献する
6. 健全な経営基盤を確立する

## 新年のご挨拶（幹部職員）

### 副院長　八橋 弘

新年明けましておめでとうございます。まず年末年始の急患患者さん、重症患者さんに対応いただき、有難うございました。さて昨年も新型コロナウイルス感染への対応に終始した一年となりました。幸い昨年の10月以後、日本においては感染が沈静化しましたが、このまま収束するのか、新たに第六波が来るのか誰も予想できないところかと思います。昨年10月、当院は感染症指定医療機関に指定されました。新型インフルエンザ感染者や新型コロナウイルス感染者への院内対応をより強化することで、地域住民の皆さんの安心につながるように活動してゆきたいと考えています。

さて、マスクの着用による感染予防効果は、自分への感染予防効果よりも相手に感染させない効果の方が大きいと言われています。ワクチン接種の意義も高齢者では重症化予防目的ですが、若者の立場でワクチン接種を捉えた場合、発熱などの副作用の頻度が高いにもかかわらず周りの大切な人に感染させない為に彼らはワクチン接種を受けているのではないかと思います。諸外国とは異なり日本の20歳代でのワクチン接種率は70％を超えていて、この世代の高い接種率が感染の沈静化に関与していると私は考えています。

1990年代後半から2000年代前半に生まれた彼らはZ世代と呼ばれています。生まれたときから既にインターネットやデジタルデバイスが存在しており、これからの世界を形成し時代を牽引する大きな力となると期待されています。そして彼らの価値観は、現在よりも将来を重視し、Meではなくコミュニティーを大切にするWe世代、独立志向で根気強い世代と言われています。Z世代の彼らの行動と価値観が、これからの日本を明るくしてくれるような予感がしています。

### 臨床研究センター長　黒木 保

新年あけましておめでとうございます。

皆様にとってより良き一年になりますよう祈念いたします。

コロナ禍にあり当院の研究分野にも変化が起きています。まず、学会発表の減少です。一昨年と比べて昨年の学会発表数は2割減でした。一方、光明も見えてきております。論文数の増加です。特に英文論文数は2割増でした。また、皆さんリモート発表にも慣れてきており学会発表数も増加すると思います。寅は「決断と才知」の象徴ということです。長崎医療センターにとりまして今年が「新しい成長の礎」になる年であることを願っております。

臨床研究センターのコンセプトである「エンジョイリサーチ」を今年も推し進めたいと思います。研究は楽しいものです。臨床とも両立できます。一体感をもって病院全体でリサーチを楽しむ風土を作り上げていきたいと思います。今年もよろしくお願いいたします。

### 統括診療部長　吉田 真一郎

新年あけましておめでとうございます。

12月は、電子カルテシステムの更新に職員の皆さんのご協力をいただき、ありがとうございました。また年末年始には、多くの救急患者さんや入院患者さんにご対応いただいた職員も多かったと思います。お疲れ様でした。

さて、医師の働き方改革につきましては、昨年5月に改正医療法が公布され、令和6年4月に施行、医師の時間外労働規制が開始となります。それに向けて、労働時間短縮計画の作成と実行、各職種の専門性を活用したタスクシフト／シェアの推進を、当院として本年も具体的に進めて参ります。4月の診療報酬改定においても、働き方改革の推進にむけた取り組みが、評価されるものと思います。働き方改革の推進は、全ての医療専門職それぞれが、自らの能力を活かし、質・安全が確保された医療を、持続可能な形で患者さんに提供することを目標とするものです。職員の皆さんのご協力、ご支援をよろしくお願いいたします。

今年が皆さまにとりまして、さらに良い一年となりますよう、心よりお祈り申し上げます。



## 新年のご挨拶（幹部職員）

### 事務部長　有岡 雅之

新年あけましておめでとうございます。皆様におかれましてはお健やかに新しい年をお迎えのこととお慶び申し上げます。

ご承知の通り、令和2年の初めから新型コロナウィルスが発生し、昨年も混乱の中に過ごした方も多いと思いますが、10月頃には第5波もピークアウトを迎え、このまま収束するのではないかとトンネルの先に光が見えたかと思いきや、年末には新型コロナウイルスの新規変異株であるオミクロン株が発生し、今年もウィズコロナ下での1年となりそうです。

一方、病院経営においては根幹となる患者数を設定してから事業計画を立てることになりますが、そこにコロナによるリスク（患者の減少）を落とし込むことは予測が不可能であることから大変難しい舵取りになるのは避けられません。さらに4月には診療報酬改定が予定され、また働き方改革に伴う令和6年4月からの医師に対する時間外労働の上限規制が適用されることから、勤務時間管理システム導入への対応も迫っており、今年も重要案件が目白押しではありますが、事務部の職員一丸となって取り組んでまいります。これからの一年、どうぞよろしくお願いいたします。

### 看護部長　西山 ゆかり

あけましておめでとうございます

2022年は壬寅の年となります。壬と寅の関係は「水生木」の「相生」と呼ばれる組み合わせで、これは、水が木を育み、冬を越えて、春の草木が生じる意味があるそうです。

看護部では、関係の質向上プロジェクトで、お互いがお互いを認め、高めていくことができる組織作りにつとめてきました。手応えを感じた1年でした。今年も継続して取り組んでいきたいと思います。水がなければ草木も育ちません。人も同じでお互いがお互いを思い、補完していく関係作りが大切です。冬が厳しいほど春の芽吹きは生命力に溢れ、華々しさを増します。今年は喜び事の多い年になるよう祈念します。

当院で開催している特定行為研修は、現在2期生が学んでいます。看護の視点で特定行為を実施できる高度な能力を持つ看護師を育成できるよう、3名が受講中です。JNP（診療看護師）も今年は7名になる予定です。地域で求められる看護の役割も多岐に渡ってきました。私達にできることが拡がっていますので、今年も「その人がその人らしく」の看護理念のもと、職員一丸となって、取り組んでいきたいと思います。

今年もどうぞよろしくお願いいたします

## 年男・年女の今年の抱負

新年あけましておめでとうございます。あっという間に12年が経過し、また年男が廻ってまいりました。この間に孫が2人も生まれ、すっかり立派（?）なお爺ちゃんです。周産期医療に携わってからも30年以上経ちますが、日々赤ちゃんたちの表情や視線に新しい発見があります。年を取るごとに赤ちゃんの魅力がわかるようになった気がします。これからも楽しみながら、多くの赤ちゃんや家族のお役に立てればと考えています。スタッフの皆さんにもできるだけ良い環境を提供できるように努力していきたいと思いますので、今後ともよろしくお願いいたします。

新生児科部長　青木 幹弘

皆さま明けましておめでとうございます。

あっという間に3回目の年女を迎えました。

最近の口癖は「よっこいしょ」「あいたたぁ」です。身体の変化を痛感しています。

今年もビールが相棒ですが、健康管理にも少し力を入れていきたいと思います。

誰にとっても自由度が狭まった日々が続くと思いますが、少しでも患者さんたちがその人らしく過ごせるよう、自分に出来ることをやっていきたいです。

ありきたりではありますが、寅年ということで、様々なことにトライしながら学び成長し続けられる年にできればと思っています。

今年もよろしくお願い致します。

9A病棟　冨永 美希

